

## 分科会 6

運営委員：松元 建治（広島文化学園短期大学）

運営委員：山田 純（大阪城南女子短期大学）

### 《 目標設定 》

研修会全体の目標や内容を共有しながら、分科会の目標を「ピラミッドストラクチャーで課題解決」(やるべきことが見えてくる)と、「みんなで作る元気のもと」と設定しました。その上で「小グループメンバーの発言をバランスよく」「全員を主体とする分科会」をテーマとして取り組みました。

前述の目標設定のもとで、日常の業務において「優先課題を見つけること」「課題をメンバーで共有すること」が重要であることを実感していただきたいと考えました。

### 《分科会でのスケジュール》

#### 分科会 1 日目

- 1) 自己紹介とグループ分け(3～5名の5グループ)。
- 2) ピラミッドストラクチャーの解説と演習、分科会内発表。

#### 分科会 2 日目

- 3) 全体会について共有した上で、ピラミッドストラクチャーを使った課題発見。
- 4) 小グループテーマごとの「理想の●●づくり」
- 5) 「理想の●●づくり」分科会内発表

#### 分科会 3 日目

- 6) 発表準備：全体会発表のための準備
- 7) 全員での研修会振り返り。
- 8) 発表：全体会発表



## 《 分科会全体 》

入試担当部署経験年数や社会人経験年数、地域特性など異なる部分を理解した上で、みなさんが積極的にバランスよく発言して下さり良かったと思います。特に課題の共有について、特定の人物の考えによる議論ではなく常に小グループ全体の意見を聞きながら共有できたことは分科会のメンバーに恵まれた結果だと思います。参加者から「短大に戻ってからさっそく業務改善を行っている。」との連絡も多くいただきました。

1人の発言時間の制限や、約30分を1コマとして次々に課題・発表をお願いするなど大変忙しいスケジュールでしたが、その中での取り組む姿勢は運営委員が学ばせていただきました。

自らの短大や経験談による情報交換に留まらない研修にできたことは有意義でした。個別の情報交換は懇親会などで行い、分科会では徹底して研修を行うという流れは出来ていたと思います。何より、みなさんが明るい表情で最後まで主体的に課題に取り組んでくださったことが研修会全体のテーマとも重なり嬉しく思いました。

## 《 研修会全体運営について 》

全体会の講演や事例報告も素晴らしく満足度も高いものであったと考えます。今後は質疑の時間だけでなく、テーブル内での議論の時間を常に設定するなど、主体的に考えて発信を繰り返すという方法もあるかと考えます。

昨年、今年と3日目分科会全体発表の雰囲気は出来てきたと思います。

今回が良くないという意味でなく、分科会の分け方については多くの方法がありますので、今後も検討を続け進化させていきたいです。今後の課題としては、全体会の内容と分科会の内容の連動をさらにすすめるのか、ある程度広いテーマを全体会で続けるのかなどがあげられると思います。

入試広報担当者は、学外への活動を担う業務の特殊性から、学内での平均的意識との差が生まれ、日常業務で迷いやすいと思われます。参加者が本研修会で自らの活動の方向性を再確認できればと考えています。

短大取り巻く厳しい状況の中でさらに環境は大きく変化しそうです。このような時だからこそ、本研修会の存在意義を確認することができました。

